

**「地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら一緒に成長できる」
コミュニティづくりのための「空き家再生等(リノベーション)」事業の構想**

【さわやかガールズグループ】 犬井 美香 銭原 睦美 市来 香久子 陶山 美穂子 萩迫 八重子 前多 彩子

私たちのグループは、困り事や悩み、現状を話さず中で地域には多様な人々が住んでいて、価値観や家族形態、抱える悩みや課題も多様化していることに気づいた。

特に高齢化に伴う生活上の困難や発達障害等精神障害者が抱える困難が地域の中で潜在化していて、地域コミュニティの中でも障害のある人たちとの共生・支え合いという積極的な意識や実践はみられない傾向にあることを感じた。

そこで私たちは、障害のある人もない人も、一人ひとりの生活上の困難に焦点をあて、配慮していく必要性を強く感じ、調査・研究のテーマを「地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら一緒に成長できる地域づくりを目指して」とした。

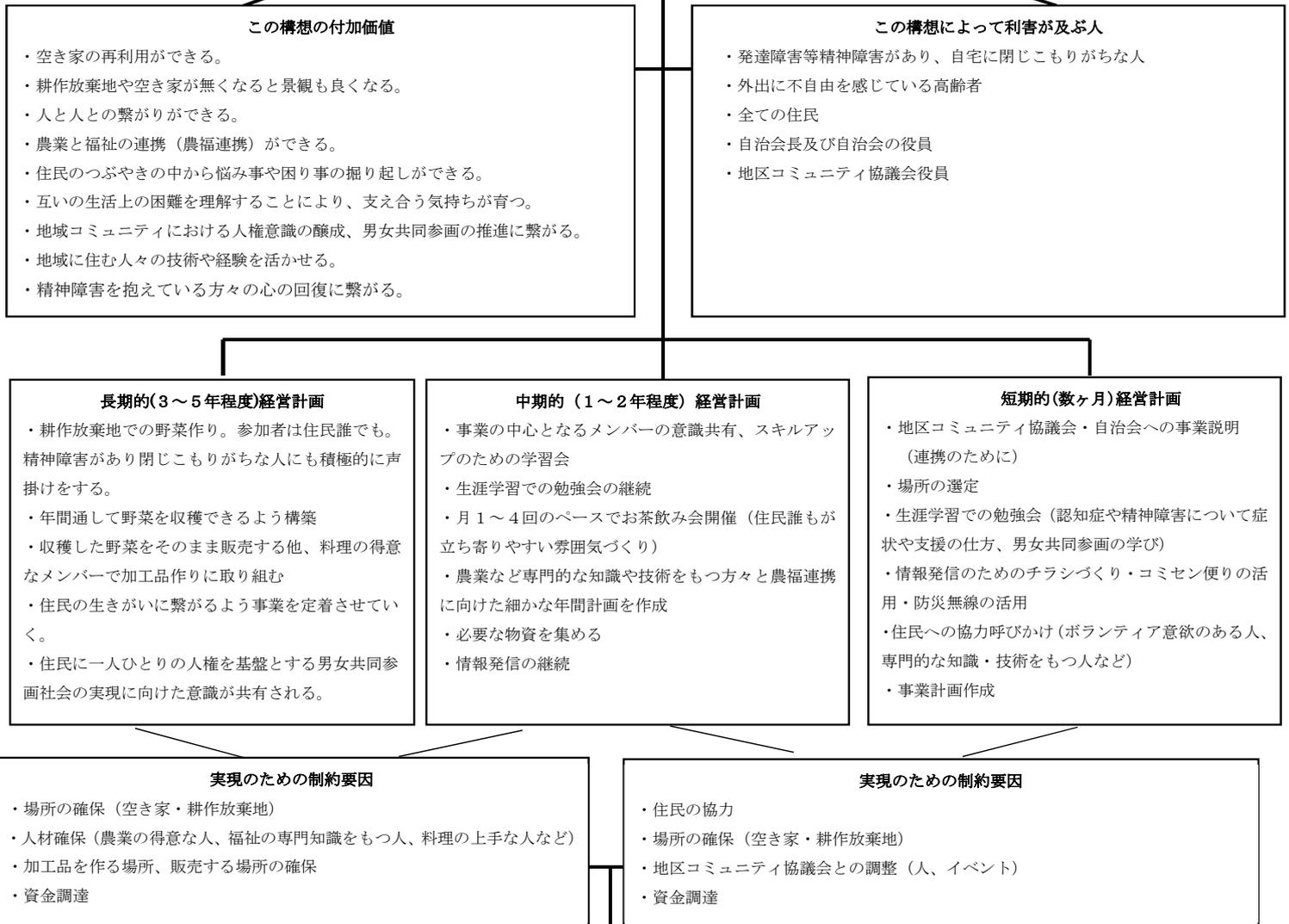
【現状として把握されたこと】

- ①地域の多様化が進む中で歩くことが困難な人など、外出に不自由を感じている人にとって“閉じこもり”や“買い物”などの日常生活を送る上での困難を支える地域コミュニティの活動は十分に出来ていない。
- ②コミュニティの中心であった学校が（統廃合により）失われることによって、人と人との繋がりが無くなり、地域コミュニティの活力がますます衰退していく。
- ③地域生活に関わる基本的なルールの守られかたには、住民間の状況の違い（障害の有無・高齢による認知症など）で格差がある。
- ④地域コミュニティ協議会や自治会の運営には、依然として固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習が、地域活動のあり方に影響を与えている。
- ⑤子育てや介護の負担が、多様な一人ひとりの生活に影響しており、その負担を軽減する地域の支え合いができていない。
- ⑥私たちの地域には様々な障害のある人がいるが、地域コミュニティでは障害のある人たちとの共生や支え合いという意識づくりができていない。

これらの現状から抽出された課題は

- ①日常生活に困難を抱えている方々への理解
- ②多様な人々との共生や支え合いという意識をもった地域コミュニティづくり
- ③多様な人々が地域コミュニティづくりに参画できる環境づくり

以上①～③が必要であるということに集約された。これらを解決するための事業構想は、住む人が居なくなり空き家になった場所で、お茶飲みをしたりお喋りができる機会を設けることにより、自然な交流が生まれ、悩みや困り事の相談もしやすい雰囲気ができる。互いの生活上の困難も理解できるようになり、支え合いの気持ちも出てくる。また、空き家近くの耕作放棄地を活用し、地域に住む人々が持ち得る技術や経験を生かし、障害のある人もない人も共に汗を流し、野菜などを作り、加工・販売することで「生きがい」を見出すことができ、精神障害を抱えている方々の心の回復にも繋がる（農福連携）と私たちは考えている。空き家も新しい価値が生み出される。これが『空き家再生等(リノベーション)』事業である。



獲得すべき経営資源

| | |
|-------|--|
| 人的資源 | 地区住民、地区コミュニティ協議会、農業の知識や技術をもつ高齢者、福祉の専門知識をもつ人、民生委員、健やか支援アドバイザー |
| 物的資源 | 空き家、耕作放棄地、農業資材 |
| 財務的資源 | 補助金の活用（市民活動補助金、空き家再生利用補助金） |
| 情報的資源 | コミセン便り、防災無線、薩摩川内市広報誌、FM さつま川内 |

そのために必要なネットワーク化

| | |
|--------------------|--|
| 自らの組織・グループの補強 | 事業への賛同者や協力してくれるメンバーの掘り起こし、意識の醸成 |
| 他の組織やグループとの関係 | 自治会、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会などとの連携 |
| 特定の個人（特に専門能力を有する人） | 女性チャレンジ委員会、民生委員、ケアマネージャー、精神保健福祉士、保健師 |
| 対行政 | 薩摩川内市役所コミュニティ課、県男女共同参画センター |

【テーマ】

地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら
一緒に成長できる地域づくりを目指して

【課題認識④】

地域コミュニティ協議会や自治会の運営には、依然として固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習が、地域の活動のあり方に影響を与えている。

- ・私たちの地域では、発言する機会が男性に偏り、コミュニティでの活動を決める時に思っていることが言えない。
- ・私は、日頃、自治会の総会に参加していない。(夫が参加)地域についての相談事を言う事が出来ない。
- ・子育て世代の若い人たちは学校・子供の行事や仕事に負われて地域の役員等をする時間的・精神的な余裕がない。
- ・私の地域では、昔ながらの法事の風習があり行事が多忙である。
- ・私達の地域の活動は固定化している。
- ・私達の地域では転勤の人が多く、子どもの人数はある程度いても地域の伝統的な行事が継続して行かない。伝えていく人が減っている。
- ・私の地域では、高齢者クラブへの80才以上が多く65才代の加入者が少ない。65才代の方は、加入はまだ自分は若過ぎると思っている。
- ・美化推進委員会に出席したら、女性2人。後は50人位男性であった。
- ・高来地区の本町自治会では、75才以上の方は地域の作業は免除されているが、体力のある方は協力している。
- ・私の自治会では、年に1回の早朝の河川愛護で、川の中に入って行う作業は男性(60~70才代以上がほとんど)が行う。女性の参加者の方が多く、女性は道端の軽作業を行う。川の中の作業が重労働で時間がかかっている。

【課題認識②】

コミュニティの中心であった学校が(統廃合により)失われることによって、人と人とのつながりが無くなり、地域コミュニティの活力がますます衰退していく傾向にある。

- ・閉校後の跡地利用の意見が言う場がない。
- ・私達の地域では、学校統廃合がなされる。地域に学校が無くなると若い世代の移住は望めないと、多くの人が心配している。
- ・私達の地域は若い人が少なくなっている。

| | 平成19年2月1日現 | 平成23年2月1日現 |
|--------|----------------|----------------|
| 0~14歳 | 15,216人 14.70% | 13,908人 14.30% |
| 15~64歳 | 60,885人 59.00% | 54,804人 56.20% |
| 65歳以上 | 27,172人 26.30% | 28,907人 29.50% |

- ・私達の地域では小学校が統廃合されると小学校と一緒にあった運動会など地域の活動が無くなると、多くの人が心配している。
- ・2年後には地域の小学校が統廃合される。未だ跡地活用が決まっていない。このまま地域まで無くなってしまわないかと危機感を抱いている人もいます。

【課題認識⑤】

子育てや介護の負担が、多様な一人ひとりの生活に影響しており、その負担を軽減する地域での支え合いができていない。

- ・私の地域のご主人を亡くした一人暮らしの八十年代の方は、買い物・ゴミ出し等で、多忙な娘を当てにするのを悩んでいる。
- ・私の地域の行事では、これまで高齢者が係の中心となっていたが、体力面への負担があったので、若い人にも声をかけて係に参加してもらおうになった。
- ・地域にひとり暮らしの人がいるが、異性の為、声をかけづらい。(体調不良の時)
- ・私達のコミュニティでは、普段高齢者が年代別ごとのグループに分かれて地域の活動をしている。研修旅行など合同の活動をする時は、移動手段など困り事を互いに助け合っている。
- ・私達の地域では、フェリーで1日出掛ける時、子どもを預ける場所(施設)がない。
- ・同居して介護をしている人の中に、時には気晴らしに出たいと思う日もある、とのこと。介護者の方にも気分転換等の助けを必要としている。
- ・私達の地域では、子ども達が学校行事・部活等で島外に出る時に、宿泊代・親の日程調整等、制約が多い。
- ・介護者の中には、デイサービスに出かけられた日が唯一の息抜き、と言われる人もいます。
- ・一人暮らしの高齢の母親と同居するために、夫婦で実家に帰って来た。娘が母親とうまくいかず、両方共悩んでいる。

【課題認識⑥】

私たちの地域には様々な障がいがある人がいるが、地域コミュニティでは障がいがある人達との共生や支え合いという意識づくりができていない。

- ・私達の地域では大人の発達障害(自閉症スペクトラムなど)、統合失調症の方への対応をどのようにするか、学びたい人が沢山いる。
- ・友人の婿が最近アスペルガーとわかった。婿は社会的に異常がなさそうであったが、給料をわずかしか家計に入れない等があり、妻はストレスがたまるばかり。3人の子育てもあり、実家から経済的援助を受けている。
- ・都会から仕事を辞めて帰省(うつ病を発症した為)年離れた両親と同居。経済は両親に依存している。
- ・現在40歳前後の一人暮らしの女性。幼い頃から祖母、母、兄妹家族と暮らしていたが、祖母、母は死別。兄妹は施設入所。その女性は低賃金で働き、家屋が半壊した家を修復することが出来ずに住んでいる。
- ・私は、薩摩川内市の保育園に勤務するようになってアスペルガー等や発達障害について学ぶ機会を得た。
- ・要介護者の親を、アルコール依存症や精神の病で治療中の子が自宅で介護している。子は、病気の症

【課題認識①】

地域の多様化が進む中で歩くことが困難な人など、外出に不自由を感じている人にとって“閉じこもり”や“買い物”などの日常生活を送る上での困難を支える地域コミュニティの活動は十分に出来ていない。

- ・私たちの地域では、高齢者の公的な交通手段が限られているため、外出を制限されている高齢者がいる。
- ・私の近所の90歳の方は、デイサービスに希望する曜日に行きたいと思っているが、市の方で決められていると不満に思っている。
- ・私の地域では88才まで車を運転していた方が、免許返納したとたん、閉じこもりとなった。デイサービスには行っているが、それ以外は1人暮らしなので、体調面をまわりの人が心配している。
- ・私の地域は買い物に行くには車が必要である。しかし、高齢者になると危険が伴うという理由で免許の返納をすすめられる。どうすればいいのが悩んでいる人もいます。
- ・私の近所の94才の家から出られない人の所に90才の方を連れて遊びに行く。4時間位、昔話に花が咲いた。
- ・私の地域の高齢者の方は、遠い所にバスに乗って行くよりも身近な住みなれた所で人との出会いがほしいと願っている。
- ・私の近所の90歳の方はデイサービスに行き為の着替え等の準備が面倒で行きたがらない。
- ・私の地域では、配偶者がお互いに元気で親しい人が一人いるのでそれ以上は求めないということで地域の行事(サロン)に参加していない人がいる。
- ・私の地域の高齢者の方はほんの少しの小皿の付き合いを喜ばれる。食の問題の大切さを実感している。
- ・自分の家の周りにお年寄り子ども達のふれあいの場がない。
- ・高齢になり、いつも家について、世間とのふれあいがなく淋しい思いをされている。

【課題認識③】

地域生活に関わる基本的なルールについての住民間の状況の違い(障害の有無・高齢化)で格差がある。

- ・私の自治会では田んぼの2kmの散歩コースにコンビニ袋の拾いが目立ち、そこを通る人達は不快な思いをしている。年に2回クリーン作戦の参加者や田んぼの所有者が定期的に拾っている。
- ・私の家の近所に猫が増え続けていて、フンをあちこちして臭い。
- ・私の自治会では、きちんとゴミの分別がなされていない時もあり、係りの人が困っている。
- ・私の家の近くの温泉施設で駐車場以外の場所にも駐車している知人がいるが、それを注意できない自分がある。

《課題抽出のための現状把握の図解》

